



発行 真言宗豊山派 霊松山歓喜院  
**金剛寺**

〒371-0241 前橋市苗ヶ島町 1147  
 TEL 027(283)6918 FAX 027(283)6815  
<http://www.raijin.com/kongouji/>

# 真宗大谷派勝念寺

『龍』 金剛寺欄間彫刻

関口文次郎有信 作



松田 秀厚

## 願われている命

二〇〇一年五月、「死ぬ程嫌なこともないけれども、生きている意味もないので自殺します」と言う言葉を残して、女子高校生二人が飛び降り自殺をした事件がありました。本当に、生きる意味のない人生などあるのでしょうか。

私達には、誰でも等しく二人の親がいます。そしてその親は四人、その親は八人、その親は十六人…。このように三十三回も数えると、今の世界の人口、六十億人を超える程の先祖がいるのです。人であれば誰もが、間違いなく平等に…。

三十三代前というのはどれ程前かという、わずか八百年程に過ぎないのです。親は、子どもに「私達よ

り良い人生を送って欲しい」という願いを込めて育てて来ています。私達の誰もが、気が遠くなるような天文学的な数の人達に「より良い人生を送って欲しい」という願いを掛けて育てられ、その血を受けた先端に「今の代表者」として生きているのです。

そしてまた私達は、子どもや孫、ひ孫のことを考えれば、これからの生きる人達の頂点に生きているのであります。

私達の命で、大切な命など無いのです。数限りない先人に、より良い人生を送って欲しいと「願われている命」であることをしっかりと受け止めて生きていきたいと思いません。

## 母は許してくれる

「朝起きると先ず涙を流す…それから一日が始まるのです。」

十三年前の一月十七日は、阪神大震災の起きた日です。

冒頭の言葉は、今年の日、NHKのニュースのなかで、六十歳前後の男性が発した言葉です。



このニュースを見ながら、十二年前、NHKの大地震のドキュメンタリー番組を思い出しました。その中で紹介された二十代半ばの青年の話です。

地震直後、近所の人達が集まって、生き埋めになった人の救助の方について話し合い、先ず「助けを求めている人から助けよう」と言うことになったそうです。青年の母親が生き埋めになっている辺りからは何の声も聞こえない。いよいよ青年の母親の番になったが、がれきを取り除くと、心配していたとおりでに亡くなっていて。その姿を見て、もつと早く掘り起こしたら、助けられたのではないかと。しかし青年は、番組の最後に「母親は、きっと許してくれると思う」と言っていました。

この青年の言葉と姿は、人の優しさと命のあり方を見直させてくれました。私の心が大きく揺さぶられた大震災の記憶です。

金剛寺の志田住職と初めてお会いしたのは、私が桐生市役所に勤務

していた十数年前のことです。

住職が、桐生市境野公民館で青少年問題について講演をしてくださった時のことでもあります。

その晩、住職をお送りしたところ、奥様に心温まるおもてなしをいただいたことも思い出します。

後に、住職が勢多中部各宗仏教会の会長さんをされた折り、副会長を仰せつかり、以来六年間一緒に秩父の札所巡りに一緒にさせていただきました。石屋さんや葬儀屋さんとの勉強会を開いたりさせていただきました。

以来、五百回を超える講演会や様々な宗教活動など、エネルギーシユなご活躍に強烈な刺激を受けて心から感謝しております。



# 幽玄の世界

長岡 進



足を踏みいれると、そこは別世界だった。金剛寺の境内は私たち夫婦を折に触れて誘い込む。

深山幽谷……ではないのだが、宮城村の一角（私は村という響きが好きだ）にある金剛寺を包み込むこんもりとした森の佇まいが、そんな世界に迷い込んだ錯覚を起こさせる。

杉木立に囲まれた駐車場に車を置き、森の内と外を隔てる小川の石橋を渡って、境内に足を一歩踏み入れたとたん、私たち夫婦の体は共通した特別な空気に満たされる。

何ともいえない安堵感。形には表わせない特別な香りとおなたかさ……

それはそのまま、ご住職の志田先生と奥様の香りとおなたかさなのかもしれない。

年に二度、盆と正月にしか訪れない私たちが、このお寺はいつも私たちと共にあるという気がしている。

信仰というものではなく、暮らしの背景に収まっているというのが、一番びったりした言葉なのではないだろうか。

その金剛寺の本堂で毎年イベントが開かれていることを知り、初めて参加させていただいた。

「尺八と津軽三味線のチャリティーコンサート」

中秋の夕暮れ。

影絵のように浮かび上がる木々と黒々と静もった鐘楼と本堂の軒の闇。

境界を流れる小川の水音……

演出は憎らしいほどにそろっている。

さらに本堂の奏者の背景には、切



り出して来たばかりの笹竹が、今まさに配されたのだった。

じつと目をつむって待つ。

次の瞬間に何か起きる。本堂に座っている誰しもが、そんな感覚を抱き、それぞれの心が薄暗がりの欄間のあちこちを駆けめぐっている。

プオー

かすかに遠くの方から、か細くしかし重い闇を鋭く貫くような、そして、もの悲しいような高い一声が、聞く者の心に届く。

それは何度か繰り返し、少しずつ近づいてくる。

プオー

突然、耳元近くで太く低く、竹藪を吹き抜ける風のような音が立ちあがる。それはか細い声と合い呼吸し、響き合い重なり合いながら、お互いに引き寄せられ近づき合っていく。

……鹿の遠吠え

何という音色なのだろう。

高く低く、そして荒び……

あの竹管からどうしてこんな力が出てくるのだろうか。

私たちの魂は、初っ端からわし掴みにされてしまった。

金剛寺の秋は、ずっしりと更けていく。

# 「尺八コンサートと法話の夕べ」に参加して



田部井 範子

私が金剛寺ご住職さんと知り合ったのは、主人がまだ元気だった十数年前、中国視察の旅に主人が一緒させて頂いた時からです。ご住職のお人柄に信頼と共感を得て金剛寺を菩提寺にしたいと常々言っておりまして。主人が亡くなつて檀家のお仲間に入れて頂き何かにつけて相談に伺いお知恵を拝借しております。

県民の日の十月二十八日金剛寺

本堂にて「尺八コンサートと法話の夕べ」にお誘いを受けて普段あまり接する折のなかった和楽器、尺八、篠笛、津軽三味線のすばら

## しさにすっかり魅了されてしまいました。和楽器の奏でる優雅さ、力強さ、甘味美さ、やさしさが日本のみならず世界に感動を与える事もうなずけます。クラシック、民謡、歌謡曲、等侘一生氏家族の織りなす何とも言えない音色と雰囲気、艶かに新鮮に息のピッタリ合ったすばらしい演奏に我を忘れて拍手を送りました。又皆さまからのリクエストにこたえられ何曲も演奏して下さいました。あの絶妙なチームワークと誠意が聴く人の心を引きつけ深い感動の渦に巻き込んで行きました。私的には尺八で聴く「コンドルは飛んでゆく」は最高でした。

演奏の途中、時宗青蓮寺、本間光男住職の法話がありました。私には馴染のなかった時宗のお話で、山伏を思わせる出立で、より

複雑心の病の多い現代の人達に原点に帰った一遍上人の教え、念佛南無阿弥陀仏のお話が本間ご住職のお人柄とご苦労と天敵とおっしゃる志田住職との心のつながり等々、知らず知らずのうちにどんな話の中に引き込まれてゆく自分に気付きました。全く知らなかった時宗や念佛も身近に感じて、機会があつたら、もう一度本間住職のお話を伺いたい……時間の過ぎるのがとても早く感じました。本堂に集う百何十人の人達もシーンとして法話に引き込まれて行くのを感じました。

何とすばらしい法話と邦楽のひとときを与えて下さったことか……感動に振えた充実のひととき……皆様に感謝の気持ちで一杯でございます。





## 私と金剛寺

大木 和夫



私にとって、金剛寺の子供の頃の想い出は、春は桜まつりで、参

道には出店が立ち並び境内では、青年団、婦人会の人達が、あて振りで踊っていたのを思い出します。今でも境内に入ると、その当時の事がハッキリと脳裏に蘇ってきます。なつかしく思い出されます。

住職さんとは、私が四十四年前に就職活動の為に、横浜に伺う時に出逢いました。住職さんは、実家から東京の大学に戻る所でした。

東京に戻るのと一緒に、その時に道中ご一緒させて頂きました。中央前橋から、JR前橋駅に向かう途中で食事をしようと、誘って頂きかつ井をご馳走になりました。その時のかつ井の美味しかった事なの、初めて食べたかつ井の味、今はかつ井が好物です。

私は、仏事でこまった時には、住職さんに相談させて頂きます。いつも親身々に相談に乗って頂き助かっています。最近では、先祖のお墓の事で相談した所、金剛寺の墓地をゆずって頂く事になりました。本当に助かりました。住職さんから作文を書いて見て下さいと、宿題を出され、本を読むのは好きですが、いざ書き始めると大

変でした。隣り町で、上泉伊勢守信綱と言う剣豪、新陰流をのみ出し、後の柳生新陰流の元になる流祖がいたのを知りました。隣り町

とは言え赤城山のふもとに生まれ育った事を誇りに思います。





## ボランティア をやつて



大館 祐子

十二月三十日に私は今回二回目となる金剛寺のお掃除のボランティアに参加しました。

ボランティアのきっかけは一回目の時に知り合いの人に誘われた事です。一回目も二回目の時もボランティアをやった日はだいたい同じ日で同じ様な天気でした。

一回目の時は、すごく寒く、床に立っている事さえもとても大変でした。なので、今回もすごく寒いのかなと思いましたが、しかし、思っていたよりもはるかに温かったので良かったのですが、温暖化

の影響かなと思いました。

お掃除は一ヶ所一ヶ所していねいにしました。ホコリなどがたくさんあり大変でしたが最初よりも、とても綺麗になり達成感がわきました。ご住職さんが金剛寺に飾つてある中国の親孝行の話をしてくださいました。その話を聞き中国の昔の人はすごいな、私もしなきゃなと思いました。いろいろと大切な話を聞いてよかったです。

私は学区内でのボランティアには参加した事がありました。が学区外のボランティアはやった事がなく、掃除のボランティアもやった事がないのでとても良い経験になりました。

今回のボランティアをきっかけにし、これからいろいろのボランティアに参加したり、人の役にたつ事をしていこうと思えました。



## 大掃除



坂庭 有莉奈

私が初めて金剛寺にボランティアとして年末の大掃除に参加させてもらったのは一年半前でした。

初めて行った時は、寒くていやだな、やりたくないという気持ちでいっぱいでした。どうしてお寺の掃除に行くのかなと少し疑問に思った事がありました。そして、また昨年二回目の金剛寺のお寺の大掃除に参加させてもらいました。一回目のと同じ様な気持ちで掃除を始めました。でも、初めての時は違い、とても寒い中でもきちんと自分で何をしようかや周りを

見ながら行動出来るようになったと思えました。

そして、お寺がだんだんきれいになると共に、自分の中の心も新しい気持ちで新しい年を迎えられると思えました。

掃除をした後は、御住職夫妻が温かいお茶と美味しいお菓子を用意してくれて、ありがたいお話を聞きながら、ひと休みをして終了します。

縁があつて、ボランティアとして金剛寺の大掃除に参加させて頂きましたが、自分を少しでも成長させてくれる良い機会なのだと思います。その縁もあたり前ではなく、学校生活の中や八年間習ってきた剣道や今回のようなボランティアなどを通して、たくさんの周りの人達に、支えられ、助けてもたつたり、アドバイスを頂きながら今の自分があるのだと思えました。そして、たくさんの良い縁を大切に、感謝しながら自分の心も成長させていけたらいいなと思いました。



法話 第五話

「仏法遙かに非ず」



それ、仏法遙かに非ず  
心中にして即ち近し。真  
如外に非ず。身を棄てて  
何くんか求めん。

孟子曰く「道は邇くに  
在りて、而るに諸を遠き  
に求む。」人が行うべき  
道は、ごく身近にある。

それなのに、わざわざ  
遠い所にこれを求めて  
いる人が多い。私達は、  
日頃「人として大切な生  
き方」を遠くに探し続け  
ている事が多い。決して  
遠くに在るのではなく、  
心(仏性)にあるのだ。

その事を知らしめるの  
が仏教の教えだと釈尊  
(しゃくそん)は説いて  
おられる。正に「空海」の  
言われておられる事な  
のです。

編集後記

平成十六年に、創刊号を出させて  
いただき、早いもので今回で第五号  
を発刊させて頂きます。

皆様のご理解とご協力に唯々感謝  
申し上げます。

昨年は、『津軽三味線と法話の夕  
べ』には、県内外より百名を超える  
方々が来寺されとても盛大に開催  
出来ました事は、関係者各位にかさ  
ねてお礼申し上げます。

演奏いただきました、佃一生先生の  
ご家族の奏でる尺八・篠笛・叩く  
ように弾く津軽三味線の音に時を  
忘れる程の感動が、本堂に満ち溢れ  
とても素晴らしい時間を共有出来  
ました。『金剛寺ホームページ』も、  
二万九千九百人以上のアクセスが  
ありました。

又、ホームページ内の「メール相談  
室」も、多くの方々より『相談』が寄  
せられました。相談者が年々増加傾  
向にある事に苦慮しております。  
青少年関係の様々な事件を考察す  
る時に、宗教者が広く門扉を開き、  
宗教施設(本堂・教会等)が『単なる  
風景』となる事のないよう心がける  
必要性を痛感いたしました。

今回、第五号は特別寄稿に「松田  
秀厚先生(浄土真宗)」をお願い致し

ました。イベントの感想をお二人に  
「長岡、進様・田部井範子様」、毎年  
ボランティアに来て下さる中学生  
「大館祐子様・坂庭有莉奈様」、そし  
て「大木和夫様」には「私と金剛寺」  
について寄稿していただきました。

末筆になりますが、ボランティア  
グループ『友遊楽』の皆様と駐車場  
係を進んで受けていただいた早川  
君・国定君両名に合わせて御礼申  
上げます。何事も一人では出来な  
い事を痛切に感じさせていただきました。  
皆さん『ありがとう』

合掌  
住職 記

鐘楼堂屋根修復工事完成

檀信徒の皆さんを始め、多くの寄進  
者のお陰で無事に修復工事が終了  
致しました。

